

県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
1	1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	<p>○ 移住・交流施策の推進として、「転入・転出者数の均衡」や「移住者数850人」の目標を掲げてはいるが、これは、ハードルが高くなり難しいと思う。</p> <p>目標達成には、働く場、生活、教育の充実など、総合的に地域の魅力を上げていく必要がある。</p> <p>現在は、地方において人の取り合いになる中、徳島県も消費者庁の本格移転を目指すなど積極的に取り組んでいる。今後も、目標達成に向け頑張りたい。</p>	<p>「転入・転出者数の均衡」、「移住者数850人」の目標達成に向けては、市町村や関係機関と連携し、「情報発信」から「相談」、「フォローアップ」、「移住実現」に至る「切れ目ない移住促進施策」の展開に加え、提言を参考にして、総合的な地域の魅力向上に取組み、移住者（転入者）の増加と転出者の抑制を図って参りたい。</p> <p>また、新しい人の流れの突破口となる消費者庁等の徳島への全面移転実現に向け、消費者庁とともに全力で取り組んで参りたい。</p>	政策
2	1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	<p>○ 農業の様々な分野で活躍する女性をモデルとして取り上げ、その姿を発信することによって、農業に携わる女性を増やして欲しい。</p>	<p>最近では、技術普及や指導活動に熱心な「指導・青年農業士」に加え、起業や産直、食育など幅広い分野で女性の参加・活躍が広がってきている。</p> <p>この流れを加速させるため、女性農業者の取組みをホームページ等で紹介し、農業への参加を促すとともに、女性農業者に対しては、研修やフォーラムを充実させることで、更なるスキルアップにつながるよう支援を継続して参ります。</p>	農林
3	2「経済・好循環とくしま」の実現	<p>○ 東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムに藍色が採用されたのをチャンスに、国内外への藍染商品の発信を強化して欲しい。併せて、地元である徳島県民がもっと藍染商品を使用することで、徳島に来た観光客に藍を強く印象付けるような運動を盛り上げて欲しい。</p>	<p>本年度、羽田空港において「阿波藍」の魅力を前面に押し出した徳島観光キャンペーン、藍染めファッションショーを実施するとともに、阿波おどり空港・徳島駅での藍製品の展示などに取り組んだところ。今後は、スポーツとコラボした展示など、「阿波藍」に関する情報発信を強化するとともに、県職員による日常的な藍製品の着用や、阿波おどりで活用について検討を行うなど、あらゆる機会を捉えて、積極的に取り組んで参ります。</p> <p>また、藍色を支える天然藍染料「阿波藍（すくも）」についても、歴史的背景を踏まえたその魅力を国内外に伝える取組みを進めて参ります。</p>	商工 県民

県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
4	2「経済・好循環とくしま」の実現	<p>○ 北イタリアの農家レストランのように、徳島の豊かな自然の中で、地元の食材を使った、おしゃれなレストランを作り、全世界に向けて「阿波フードエリア」として発信してはどうか。</p>	<p>県内では、レストラン機能や体験機能を持ち、「阿波ふうど」の魅力を効果的に発信する直売所を「夢ファーム」として開設を推進している。</p> <p>更に、県外においては、徳島の食、自然や文化を体感できる施設「ターンテーブル」を都内に設置し、首都圏における情報発信と交流の拠点として機能強化を図り、徳島への人の流れを創出して参ります。</p>	農林
5	3「安全安心・強靱とくしま」の実現	<p>○ 防災、減災対策については、地域防災リーダーの養成などソフト面で非常に充実してきている。また、ハード面についても、公共建築物の耐震化については、かなり進んできている。</p> <p>一方、民間の木造住宅の耐震化促進については、先の熊本地震でも住宅倒壊で死亡する方が多数いるという現状を踏まえると、なお一層の強化が必要ではないか。</p>	<p>本県では、住宅の倒壊等から助かる命を助けるため、耐震診断及び耐震改修、リフォームと併せて実施する簡易な耐震化、耐震シェルター設置、住替え事業など補助制度の拡充に加えて、診断から工事までをワンストップとする申請手続きの簡素化や、専門相談員による技術的支援、耐震現場見学会の開催などの積極的な普及啓発により、ソフト面からの強化も図ってきたところである。</p> <p>また、昭和56年5月以前の旧耐震基準の木造住宅のみならず、それ以降の新耐震基準のうち接合部の仕様等が強化された平成12年5月以前の耐震基準の木造住宅についても、平成25年度から全国に先駆けて支援対象としている。</p> <p>市町村や関係団体と一体となって、診断から工事につなげる取組みをさらに強化し、木造住宅の耐震化を促進して参りたい。</p>	県土
6	3「安全安心・強靱とくしま」の実現	<p>○ 安全・安心な食の確保については、偽装できないような制度設計も大切だが、偽装がなされた場合にそれを見抜く仕組みが必要である。生産者サイドと消費者サイドが両面から一体となって取り組む必要がある。</p> <p>消費者庁の誘致を目指す徳島県としては、是非、全国に誇る仕組みを早期に実現して欲しい。</p>	<p>県では、これまで事業者に対しては、条例による仕入資料等の保管義務化、認証制度の普及定着、「食品表示Gメン」の増員と科学的産地判別分析による監視強化等を行ってきたところである。</p> <p>一方、消費者サイドでも食品表示のモニタリングを行う「食品表示ウォッチャー」による店頭での不適正表示の監視を行ってきた。</p> <p>今後は、生産者サイドと消費者サイドの両面から一体となった監視を行うため、「Gメン」と「ウォッチャー」の連携強化や、「ウォッチャー」の増員等を行い、全国に誇る先駆的体制の確立を目指す。</p>	危機農林

県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
7	4「環境首都・新次元とくしま」の実現	<p>○ 剣山を「地域の宝」として次世代へ継承していくため、剣山サポーターによる自然保護活動等に取り組んでいる。</p> <p>○ 今後は、徳島の山において、トレッキングを通じた健康づくりや森林づくりの推進など部局を超えた総合的な観点で施策を進めて欲しい。</p>	<p>剣山サポータークラブは、自分に合ったスタイルで自然保護活動などに参加できるクラブで、会員の皆様にイベント情報を案内し、ニホンジカによる食害対策の防護ネット管理、正確な登山道情報を得るための現地調査、自然保護講演会など、できることからご参加いただいている。今年度は、はじめての「山の日」を記念した「大好き♡剣山」を開催し、高校山岳部による「はじめての山登り」講座を通して、小学生親子や一般登山者が、女性サポーターや自然保護団体と一緒に山に親しむ機会をつくり、山の恩恵に感謝する気運の醸成を図ったほか、登山道の整備補修や登山マナーの啓発を行うことにより、幅広い登山者の安全安心の確保に努めた。今後も引き続き、地域や他部局と連携した自然保護活動や人材育成、山に親しむ機会づくりに努めて参りたい。</p>	西部農林
8	4「環境首都・新次元とくしま」の実現	<p>○ 地域の良好な環境づくりとして花を通して来訪者の心を癒やすため、都市公園内において官民協働で花壇を設置しているが、都市公園に限らず、広く人が集まる場所を対象としてはどうか。</p>	<p>当事業は、平成26年度に開催した「みどりの愛護」のつどいにより高まった緑化推進の機運を更に盛り上げるため、平成27年度から新たに組み立てられ、まずは、多くの県民が集う都市公園において、花壇の区画を増やしていきたいと考えている。</p> <p>都市公園以外での緑化推進については、何処でどのような取り組みが可能か当事業と並行して調査・研究して参りたい。</p>	県土
9	5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	<p>○ 「65歳以上＝高齢者」の概念払拭に向けた政策提言を数値目標として掲げているが、この概念の払拭は、なかなか県民に浸透していないのが現実ではないか。</p> <p>○ 例えば、65歳以上を生産年齢人口（現在は、15歳以上65歳未満）に入れるなど、どの部分でこの概念払拭を狙っていくかという、ポイントを絞った施策展開が必要ではないか。</p>	<p>平均寿命の延伸に伴い高齢者の意識も変化してきており、平成28年の厚生労働省「高齢社会に関する意識調査」では、「高齢者である」と思う年齢は、「70歳以上」が最も多く41.1%となっているほか、就労の面でも、平成24年の「総務省・就業構造基本調査」では、65歳以上で就業を希望する人は全国で207万人に上り、平成26年に内閣府が行った「高齢者の日常生活に関する意識調査」でも就労を希望する高齢者の割合が7割を超えるなど、「65歳以上＝高齢者」とする定義について、現在の高齢者の実態や意識と乖離してきていると考えている。このため、まずは生産年齢人口・社会の担い手として、高齢者を「支えられる側」とするイメージの転換を図り、地域を支える「新たな担い手」として捉えることで「65歳以上＝高齢者」の概念払拭につなげていきたいと考え、去る11月には、意欲ある元気高齢者に地域の人手不足分野である介護現場で活躍いただくための政策提言を行ったところである。</p> <p>さらに本県においては、提言を具現化するため、来年度以降、現役職員と元気高齢者との業務シェアにより、介護現場における価値観を転換する「徳島県版『介護助手』制度」を新たに創設し、関係機関と連携を図り、展開していきたいと考えている。</p> <p>今後とも、こうした高齢者の活躍の場の創出や、実践を通じて、県民に「高齢者の新しい働き方」の提案・周知に努めるとともに、その支障となる制度の改正について国へ積極的に提案していくことを通じて、高齢者に対する固定観念の打破、ひいては65歳以上を「シルバー生産年齢人口」と先導できるよう取り組んで参りたい。</p>	保健

県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
10	5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	○ オープンデータの利活用促進については、県だけでなく、多くの公共データをもつ市町村とも連携して公開データの充実を図って欲しい。	オープンデータポータルサイトの充実を図るためには、地域住民との距離が近く、「くらし」に身近なデータを保有する市町村との連携が重要と考えており、今後とも市町村に対してオープンデータ公開の働きかけを継続し、分野や地域を横断したデータ利活用を支援していく。	政策
11	6「まなび・成長とくしま」の実現	○ 動画などのツールが増えたことにより、子供達の読書量が減ってきている。読解力の低下は、作文力やコミュニケーション力の低下に繋がり、大学生や社会人になっても影響が残る。 充実した学びの推進には、読書量を増やすプログラムを、今後更に充実させていくことが大切である。	平成18年度から取り組んでいる読書の生活化プロジェクトがⅣ期となり、読書量のみならず読書の質の向上を目指すことで、読書活動の充実を図っているところ。「おすすめ本」の紹介を中心に各学校の取組みの工夫を広く紹介することで、学校図書館の活性化を図ったり、ビブリオバトル(知的書評合戦)への参加参戦の啓発を行ったりするなど、読書の楽しみを推奨し読書量の増加に努めております。また、家庭読書の普及のために、各家庭への読書活動のイベント情報の提供を見直し、発信し、読書の生活化を図って参ります。	教育
12	6「まなび・成長とくしま」の実現	○ リオオリンピックでは、日本のアスリートが大活躍している。本県でも、トップアスリートの育成に取り組んでいるが、もっと指導者の育成や周りの環境の整備にも力を入れて欲しい。 また、競技力向上だけでなく、怪我をケアできる専門的な指導者の配置も大切ではないか。	(県民) 指導者の育成については、各競技団体や県教委、県体協、大学と連携し、中央研修会への派遣や専門家を招聘しての講習会を開催している。また怪我のケアについては、スポーツトレーナーなどのコンディショニングの専門家や栄養士を学校に派遣し、直接、競技者を指導するとともに、指導者の養成を図っている。今後とも、選手や指導者のニーズに適った講習会を実施するなど、サポート体制の充実に努めて参りたい。 (教育) 中・高校の運動部活動の指導者を対象に、年3～4回の指導者研修会を開催し、最新のトレーニング法や指導法などについて研修する機会を作ってる。また、鳴門渦潮高校の専攻実技の指導者に対しては、県外で研修する機会を設けている。今後とも、競技力の向上とともに、指導者の育成に努めて参りたい。	県民教育

県政運営評価戦略会議からの「基本目標ごとの意見・提言」への対応方針等

番号	基本目標	意見・提言の内容	対応内容（今後の方針等）	部局
13	7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	○ 東京オリンピックの開会式で、阿波おどりをできないか。阿波おどりの本場である徳島県として、実現に向けて取り組んで欲しい。	<p>これまで、「はな・はる・フェスタ」の春の阿波おどりや、8月の本番、「阿波おどり会館」における毎日おどる阿波おどりに加え、平成27年度からは「秋の阿波おどり～阿波おどり大絵巻～」を大々的に開催するとともに、国内外で有名連に踊りを披露していただくなど、本場・徳島の「阿波おどり」の魅力を発信してきたところです。今後は、新たに「冬の阿波おどり」にも取り組み、観光誘客の促進を図って参ります。</p> <p>阿波おどりの熱気と迫力は、世界中の皆様にも感動を与えることができ、文化や国籍など様々な違いを乗り越え、平和でよりよい世界の実現に貢献するというオリンピックの精神にも合致するものと考えております。</p> <p>今後、東京オリンピック・パラリンピックにおける阿波おどり披露の実現に向け、阿波おどり関係団体とも連携し、機会あるごとに関係機関に働き掛けを行って参ります。</p>	商工
14	7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	○ とくしまマラソンについて、年々非常に賑わいを見せており、参加者も増えている。徳島のお接待の気持ちが全国に知れ渡っているような感じがする。 今後、とくしまマラソンについて、県内各市町村の友好都市などを通じて、一層多くの外国人の方に参加してもらいたい。そして、とくしまマラソンのお接待の気持ちを世界に広めて欲しい。	<p>とくしまマラソンは、沿道でお接待をいただいているボランティアの皆様をはじめとする関係者のご協力のもと回数を重ね、次回2017大会で、第10回を迎えることとなる。今後とも、関係者の皆様としっかりと連携して、また出たいと思える大会となるよう取り組んで参ります。</p> <p>また、外国人の方の参加については、2015大会から、中四国のフルマラソンで初となるコースの国際規格である「AIMS」「IAAF」の認証を取得した大会として、世界から参加者を募集するなど、国際化に向けた取組をすすめており、今後、さらに国際色豊かな大会となるよう、努めて参ります。</p>	商工